

令和3年度 教育事業  
 文部科学省「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」  
 (子供たちの心身の健全な発達のための自然体験活動推進事業) 委託事業  
 「羽咋まるごとCAMP ～元気・勇気・チームワークで羽咋の魅力を楽しもう～」

1 趣旨

本事業は、令和2年度に計画されていた移動型長期キャンプがコロナ禍の影響により中止され、加えて学校行事での宿泊体験学習を中止した学校が多くなったことを受け、宿泊体験学習を楽しみにしていた小学校高学年児童を対象とした長期キャンプの代替として昨年度より始まった事業である。新型コロナウイルス感染症対策のため、施設滞在型キャンプとし、野外での体験活動を中心として事業を展開する。施設滞在型であることから、3泊4日の日程の中で、施設内及び施設周辺に加え、所在地である羽咋市の自然環境や歴史・文化資源等を十分に活用する。

参加する子供達に付けたい力として、「羽咋市の自然環境及び歴史・文化資源を活用した宿泊体験活動を通して、初めて出会う仲間と共に自然に親しみ互いに協力し合うことで、よりよい人間関係をつくる力を育む。」こととする。

2 日程

- (1) 期 日 令和3年8月1日(日) 事前説明会 日帰り  
 令和3年8月8日(日・祝)～11日(水) 3泊4日
- (2) 参加者 小学校5・6年生 25名  
 (5年生：男子7名、女子7名 6年生：男子8名、女子3名)

(3) 研修内容

8月1日(日) 【日帰り】	8月8日(日・祝) 【本館泊】
9:30～受付 10:00～開講式 アイスブレイク 11:00～熱中症予防対策講義 講師：大塚製薬工場 12:00～昼食 13:00～サイクリング 16:00～閉講式 閉講式後解散	10:00～受付 10:30～開講式 アイスブレイク 12:00～昼食 13:00～いかだ体験 17:00～生活指導、ベッドメイキング 18:00～夕食 19:00～チームフラッグ作り 20:30～入浴 21:30 就寝
8月9日(月) 【本館泊】	8月10日(火) 【本館泊】
6:00 起床 7:30～朝食 8:30～サイクリング コスモアイル羽咋(コスモシアター鑑賞、館内見学) 羽咋市歴史民俗資料館(館内見学) 吉崎次場遺跡公園(火おこし体験、まが玉づくり) 道の駅のと千里浜(お買い物タイム) 17:30～入浴 18:45～夕食 20:00～サイクルロゲイニング作戦タイム 21:30 就寝	6:00 起床 7:30～朝食 8:30～フォトロゲイニング※1 12:00～昼食 13:00～マイスプーン作り 16:00～野外炊飯(のとししカレー作り) 19:00～キャンプファイア 20:30～入浴 21:30 就寝
8月11日(水)	※1 当初サイクルロゲイニングを予定していたが、 荒天のためフォトロゲイニング(館内・敷地内)に 変更した。
6:00 起床 7:00～朝食 8:30～SUP体験・砂像造り体験 12:00～昼食 13:00～自転車整備 シャワータイム 14:00～閉講式	

### 3 成果と課題

#### (1) 活動プログラムの実際

##### ①サイクリング・サイクルロゲイニング in 羽咋

サイクルロゲイニングとは、移動手段として自転車を使用し、地図を見ながらコースに多数設置されたチェックポイントをできるだけ多く、制限時間内にまわり、得られた点数を競う野外スポーツである。

「UF0のまち羽咋」として観光PRをしている羽咋市内には、各所に自然、歴史・文化的資源が多数ある。これらは観光資源でもあり、教育的価値が高いものもある。「サイクルロゲイニング in 羽咋」は、これらをチェックポイントとして設定し、サイクリングをしながら巡る活動プログラムである。市内に多数配置されたチェックポイントをどのように周るかをチームで話し合い、作戦を立て、協力して活動することから、観光的な要素だけでなく、仲間づくり・チームビルディングの要素も持ち合わせている。

今回の事業では、サイクルロゲイニング作戦タイムをより充実したものにするために、前日に全体でのサイクリングの活動で、羽咋市内の観光施設等を周りながら施設見学や体験活動を行った。コスモアイル羽咋では、コスモシアター鑑賞や館内クイズラリーにより、宇宙や天体について学ぶことができた。羽咋市歴史民俗資料館、吉崎次場遺跡公園では、学芸員の解説を聞きながら、施設見学や遺跡見学を行い、羽咋市の歴史について学ぶことができた。また、火おこし体験とまが玉づくりを行い、弥生人の生活や文化に触れることができた。道の駅のと千里浜では、羽咋市の特産物を知り、お土産を買うことができた。

サイクルロゲイニング作戦タイムでは、サイクリングで得た距離感や方向などの情報をもとにグループで活発な話し合いをすることができた。作戦について、互いに意見を出し合いながら最終的には意見を調整し合い、グループとしての作戦を立てることができた。翌日は天候不順のため、サイクルロゲイニングを実施することができなかったが、前日の経験を活かしながら雨天のプログラムのフォトロゲイニングの作戦を立てることができた。



【サイクリングの様子】



【コスモアイル羽咋】



【羽咋市歴史民俗資料館】



【火おこし体験】



【まが玉づくり】



【道の駅のと千里浜】



【サイクルロゲイニング 作戦タイム】



【フォトロゲイニング 作戦タイム】



【フォトロゲイニング】

## ②のとししカレー作り

「のとしし」とは、羽咋市が6次産業として特産化を進めてきたイノシシの精肉加工品である。能登半島での爆発的なイノシシの増加とその被害の拡大を受け、その対策が問題となっている。これまでは、捕獲されたイノシシは埋設処分されていたが、これを資源として、精肉、革細工、肥料等に加工して活用する取組が「のとしし大作戦」である。現在は、合同会社のとしし団がイノシシの精肉加工販売を行っている。

事業では、羽咋市ならではの「のとしし肉」のミンチを利用したカレーライス作り（野外炊飯）を活動プログラムとして取り入れた。

「のとしし肉」活用の背景を知り、羽咋市のイノシシ対策について考えることができた。また、グループで協力し調理をすることで、チームワークを高めることができた。



【薪割り】



【のとししカレーの調理①】



【のとししカレーの調理②】



【のとししカレー完成】

## ③SUP体験・砂像造り体験

SUPとは「Stand Up Paddleboard（スタンドアップパドルボード）」の略称である。その名の通り、ボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進んでいく新感覚のアクティビティであり、施設から近い羽咋市柴垣海岸で楽しむことができる。

指導は、羽咋市柴垣町でSUPによる観光活性化や海岸の清掃活動等を行っている市民活動団体「長手島」に協力を依頼した。SUPは、安全を考慮し、参加者児童1名に対して指導者が1名付く形で行った。また、羽咋市で活動しているドローンチーム「羽咋ドローンズ」にも協力を依頼し、ドローンで活動中の様子を空撮した。撮影された映像はYouTubeで配信し、参加者へ提供するとともに、関係団体のPRにもつなげたいと考えた。

事業当日は、少し波もあり参加者にとって挑戦しがいのある活動状況であった。参加者は比較的すぐにボードの上に立ち、立ったまま波を乗り越えようとする姿が見られた。波を受け、何度も海に落ちながらも果敢に挑戦し続ける姿やタイミングよく波を捉え、波に乗る爽快感を味わう姿も見られた。安全を確保しながら、自然に挑み、自然を楽しむことができたようであり、アンケートの結果でも満足できたことが分かった。



【SUP体験①】



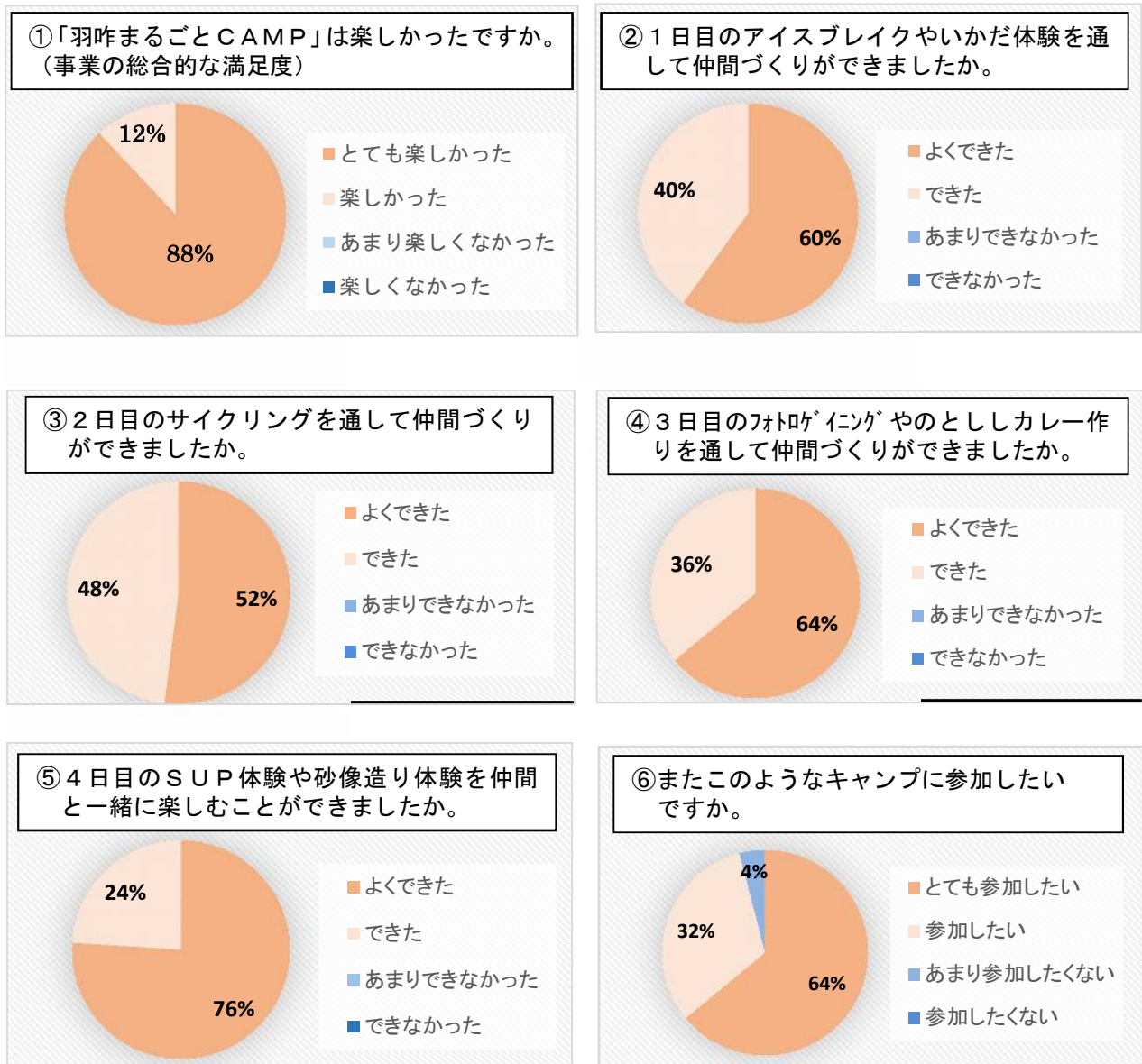
【SUP体験②】



【砂像造り体験】

## (2) アンケート結果について

事業評価を目的とし、参加者を対象にアンケートを実施した。



### <参加者の自由記述より（一部抜粋）>

#### ①サイクルロギング・フォトロギングについて

- ・サイクルロギングは大変だったけれど、チームワークを高めることができてよかった。フォトロギングも協力できた。
- ・羽咋の観光スポットを改めて知り、羽咋市の魅力が伝わっていいと思った。
- ・自分だけじゃなくて、一緒にグループの人たちと力を合わせてできた。

#### ②のとししカレー作りについて

- ・みんなで協力して、自分の役割を果たすことができてよかった。みんなで作ったカレーはとても美味しかった。
- ・グループ全員で頑張って、「協力するのは大切だ」と思った。
- ・のとしし自体を知らなかったから、この事業で知り、食べて美味しいと思った。

### ③SUP体験について

- ・SUPを初めてやって、バランス感覚が大切だった。SUPをたくさんやりたい。
- ・最初は全然立てなかったけど、乗るにつれて立ったり、曲がったり、波に乗れてよかった。
- ・初めてだったけど、教えてくれた人もみんな優しく、立てた時にうれしかった。

### (3) 成果と課題

#### ①成果

- ・事前説明会を実施し、子供達に付けたい力である「羽咋市の自然環境及び歴史・文化資源を活用した宿泊体験活動を通して、初めて出会う仲間と共に自然に親しみ互いに協力し合うことで、よりよい人間関係をつくる力を育む。」ことを参加者、ボランティアスタッフ、職員で共通理解し、事業の中でも意識を継続しながら活動することができた。
- ・事前説明会に合わせて、保護者との面談を実施し、参加者の理解を深めたことで安全な実施に繋がった。
- ・羽咋市をはじめ、羽咋市内の団体や施設の協力を得ることで、羽咋市の自然環境及び歴史・文化資源を活用し、参加者に羽咋市の魅力を伝え、満喫してもらうことができた。参加者にとっては、地域の魅力を知る良い機会となった。地元からの参加者にとっては、地域の魅力を再確認する機会となった。
- ・参加者にとっては、体力的・精神的に厳しい活動もあったが、活動班で声をかけ合い、励まし合うことで全員が全ての活動を最後までやり抜き、達成感を感じる事ができた。事後アンケートでは、「楽しかった」、「仲間づくりができた」、「チームワークを高めることができた」、「仲間と楽しむことができた」のいずれの質問でも肯定的な回答が100%であった。
- ・新型コロナウイルス感染症対策及び熱中症予防対策を定期的実施し、体調不良者を出すことなく安全に事業を実施することができた。

#### ②課題

- ・日々天気が変わり、晴天雨天のプログラムの実施判断が難しかった。天気だけでなく、参加者の体調や様子などから実施の判断をしたことで、ケガや事故等なく実施できたが、より明確な実施判断の基準を事前に持つ必要がある。
- ・プログラムの内容が多かったため、日程的に過密になり、参加者の疲れも日を追うごとに蓄積されていたように感じた。事業後半の日程については、余裕を持った日程を組む必要があった。